

アート コミュニケーション プログラム

平成25年度
東京都美術館アート・コミュニケーション事業報告

Tokyo
Metropolitan
Art Museum

Annual Report

2013



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

アート・コミュニケーション事業

- とびらプロジェクト
- Museum Start あいうえの
- 学校連携
- 展覧会関連プログラム
- 美術館たんけんツアー・建築ツアー
- アクセス・プログラム
- 調査・研究プロジェクト
- 新伝統工芸プロデュース

アートコミュニケーションプログラム

アートを媒介として、人々のつながりや、新たなコミュニケーションを育む活動をしています。美術館が作品を鑑賞する場にとどまらず、鑑賞を「体験」として、より深める場所になるように、様々な参加型プログラムを実施しています。

*参加方法等の詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

とびらプロジェクト

東京都美術館と東京藝術大学が連携して行うアートを介したコミュニティを作るプロジェクト。一般公募のアート・コミュニケータ「とびら」が学芸員や大学教員らと共に活動。美術館に集う多様な人々と作品や場をつなぐコミュニケーションから新しい価値を創出し社会に届けます。

museum start あいうえの

上野公園に集まる文化施設が連携し、子供たちの“ミュージアム・デビュー”を応援。子供と大人が学びあえる環境を創造する「ラーニング・デザイン・プロジェクト」です。年間を通じて、小・中・高校生が参加できるプログラムをおこなっています。

この事業は東京文化発信プロジェクトの一環として実施します。
主催：東京都、東京都美術館・東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）東京藝術大学

デザイン © 近藤一弥

平成 24 年度のリニューアルオープンを機に立ちあげた、アートを介したコミュニティづくりのプロジェクト。当館と東京藝術大学（以下、藝大）が連携し、市民と共に美術館を拠点にオープンで実践的なコミュニティの形成を目指している。新しく一般公募の上、選考を経て集まったアート・コミュニケータ（愛称：とびら）は、前年度のとびらと合流し、127 人が活動。とびらと、学芸員と藝大の教員は対等に対話を重ねながら基礎講座や実践講座を経て、様々な美術館でのプログラムを実施した。とびらの活動はボランティアな活動である。しかし、「アートを介してコミュニケーションを促進する人」という、その人の

「働き」が明解であることが名称として最も重要と考え、とびらをボランティアとは呼んでいない。とびらは美術館や文化財を介して新たなコミュニケーション回路をつくる役割を持ち、学びと実践をくり返しながらプロジェクトを推進している。

また、日比野克彦氏（東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授）、西村佳哲氏（働き方研究者／リビングワールド代表）、森司氏（東京文化発信プロジェクト室地域文化交流推進担当課長）がプログラム運営のアドバイザーとして関わっている。実施プログラムは事業実施一覧（P60～62）を参照。ウェブサイト（閲覧回数 63,959 回）<http://tobira-project.info/>

平成 25 年度 とびらプロジェクトの 1 年

平成 24 年度

- 1 月 とびら 2 期生募集の広報開始
- 2 月 とびらフォーラム（説明会）／応募受付
- 3 月 書類選考（1 次）→グループ面接（2 次）→第 2 期とびら決定通知

平成 25 年度

- 4 月 基礎講座（～6 月）隔週土曜日 6 回（10-15 時）全 24 時間とびらボ（年度末までに通算 223 回開催）
- 6 月 実践講座（～2 月）
鑑賞実践講座 年間 14 回
アクセス実践講座 年間 13 回
建築実践講座 年間 8 回
- 8 月 『Museum Start あいうえの』開始
- 1 月 とびら 3 期生募集広報開始
- 2 月 とびらフォーラム（説明会）／応募受付
- 3 月 書類選考（1 次）→グループ面接（2 次）→第 3 期とびら決定通知

応募条件

- 1) 18 歳以上の方（高校生を除く）で、日本語で日常会話ができる方
- 2) 美術または美術館に関心があり、積極的に学び、活動意欲のある方
- 3) 東京都美術館のミッション（使命）を理解し、共感して活動できる方
- 4) 4-6 月の基礎講座全 6 回に原則としてすべて参加可能な方
- 5) 7 月以降、月 2 回以上の活動に参加可能な方
- 6) 電子メールでの連絡が可能な方（パソコンでのメール送受信が可能な方）

活動条件

- 1) アート・コミュニケータの活動は無償。交通費、謝礼等の支給はなし。ただし、講座及び随時開催される研修に無料で参加可能。
- 2) アート・コミュニケータの登録期間は 1 年間。次年度以降は本人と美術館双方の合意のうえ、登録更新が必要。
- 3) アート・コミュニケータの任期は最長 3 年間とする。

平成 25 年度の応募状況

199 人からの応募があり、書類審査、面接を経て、55 人が第 2 期とびらに決定。約 4 倍の倍率であった。この 55 人と平成 24 年度の第 1 期とびら 72 人とで 2 年目のとびらプロジェクトが始動した。



とびら募集チラシ

とびラーのすがた

第2期とびラーの年齢分布は10代5%、20代36%、30代19%、40代23%、50代10%、60代7%となり、40代までで約8割を占める。

第1期と合わせると、女性76%、男性24%の割合。年齢分布は10代5%、20代30%、30代24%、40代12%、50代16%、60代13%、70代2%。居住地区は東京都内が72%を占め、その他、埼玉、千葉、神奈川、茨城、山梨の近接各県からの参加があった。活動は平日、週末もあるため、それぞれの生活スタイルに合わせて各自が調整。月2回以上の参加が原則的な活動条件である。

とびらプロジェクトの事務局

平成24年度に引き続き、当館のプロジェクトルームを拠点として、藝大の伊藤達矢特任助教（とびらプロジェクト・マネージャ）と近藤美智子特任助手（とびらプロジェクト・コーディネータ）、大谷郁（とびらプロジェクト・アシスタント）が運営の実務を担当した。

基礎講座・実践講座

とびラーは「基礎講座」と「実践講座」を通して、当館のミッションと藝大からのメッセージ、とびらプロジェクトの目指す方向性を共有し、とびラーとしての役割への理解を深めていく。

基礎講座（4～6月の隔週土曜日10～15時/全6回）

当館を拠点として、アートや文化財を介しながら新たなコミュニケーションを作っていくための基本を学ぶ。「現在の美術館活動はどのようなものか?」「対話やクリエイティブなコミュニケーションが起こる場づくりとは?」「ホスピタリティとは?」など、具体的に参加形式で学ぶ。1年目のとびラーは全員必修。



第1回基礎講座

- 第1回 オリエンテーション（全とびラー対象）
講師/伊藤、近藤、稲庭
ねらい：とびラーの顔合わせ。年間スケジュール、活動ルールの共有。
- 第2回 あさっての美術館を考える 講師/日比野
ねらい：Museum Start あいうえのについて考える。上野恩賜公園に集積するミュージアムを体験する。
- 第3回 きく力について考える 講師/西村
ねらい：人の話をくきく力を互いに学び合い、今度のとびらプロジェクトにおけるコミュニケーションの礎とする。
- 第4回 まなざしを共有する 講師/小口弘史（損保ジャパン東郷青児美術館顧問）、伊藤、稲庭、河野
ねらい：対話による作品の鑑賞について理解を深める。
- 第5回 とびラーの働き方と活動の評価について
講師/西村、森
ねらい：小さなプロジェクトを立ち上げ進行する上で必要な手法について学ぶ。また自ら行なったプロジェクトを評価することの意味について考える。
- 第6回 実践の計画を立てる 講師/稲庭、伊藤、近藤
ねらい：4月から6月までの活動を振り返り、とびらプロジェクトの全体像を掴む。今後の活動方法を考える。

実践講座（5月以降各講座ごとに適宜実施）

基本となる3つの柱に則した、より実践的な3種類の講座。各講座は外部の専門家や学芸員が担当、実際の現場で気付いた疑問なども振り返りながら、活動への理解を深め、コミュニケーション・スキルを高めていく。



第5回基礎講座

- A 鑑賞実践講座（モノと人を考える）全14回 講師/三ツ木紀英（NPO 芸術資源開発機構 ARDA）、稲庭、河野
- B アクセス実践講座（ヒトと人を考える）全13回 講師/杉山貴洋（白梅学園大学発達臨床学科准教授）、両角美映（NPO 法人レインボー）
- C 建築実践講座（ハコと人を考える）全8回 講師/東原克行（前川建築設計事務所副所長）、佐藤由巳子（元・前川國男秘書）、河野

オープン・レクチャー

「とびらプロジェクト」の一環として、とびラーおよび、とびらプロジェクトに関心のある一般の方々を対象に、とびらプロジェクト オープン・レクチャーを実施した。とびラーが「アート・コミュニティの形成」について理解を深めるとともに、とびらプロジェクトに関心のある一般の方々にも発信する機会とする。2回開催。1回目は「アート・コミュニティの形成」（5/12：中台澄之氏（株式会社ナカダイ）、田中浩也氏（慶応義塾大学環境情報学部准教授）、5/19：山崎亮氏（STUDIO-L、京都造形芸術大学空間デザイン学科長）、大月ヒロ子氏（IDEAR LAB））をテーマに、2回目は「前川國男」（10/26：佐藤由巳子氏（前川國男元秘書））をテーマにしたレクチャーを開催した。のべ208人参加。1回目の内容は『クリエイティブリソース—廃材と循環するモノ・コト・ヒト』（millegraph 刊、2013年8月発行）に収録され、出版された。

とびらプロジェクトフォーラム

平成26年度第3期アート・コミュニケータ募集のための説明会（フォーラム）を開催した。午前・午後と、2部構成になっ



とびらプロジェクトフォーラム 左から森氏、西村氏、日比野氏

ており、午前の第1部「クロストーク」では藝大の講義室を会場とし、「とびらプロジェクト」のキーワードを読み解き、続くパネルディスカッションでは現在進行形の「とびらプロジェクト」について設立から関わっているメンバーが（日比野・西村・森・伊藤・稲庭）語りあった。午後の第2部は当館のアートスタディールームを会場に「オープンスペース・カフェ」を開催し、「とびらプロジェクト」の活動拠点を公開。参加者同士がフランクに対話できるカフェや、普段の活動を知ってもらうための資料を用意し、パネリストやとびラーが来場者の率直な疑問にも対応した。のべ305人参加。

とびラボ

「とびラボ」はとびラー同士が自発的に開催する学び合いの場であり、新しいプロジェクトの検討と発信が行われる場所である。様々なバックグラウンドを持つとびラーによる「この指とまれ式」→「そこにいる人がすべて式」→「解散！また結成」の3ステップでオリジナルの活動が生まれ、アートを介したコミュニケーションの可能性が大きく広がっている。同時に「とびラボ」はとびラー同士のゆるやかなコミュニケーションの場でもあり、対話から生まれる充実した時間が美術館に新しい価値を注ぎ込んでいる。年間のべ開催回数223回。のべ参加者数1,363人。

主な「とびラボ」

とびらボードでGO！、とびリア、ライぶらり、トビカンみどころマップ、紙芝居プロジェクト、と・も・に一視覚障害者編一、思わずにっこりプロジェクト、見楽会、とびの人々、企画展勉強会、缶バッジプロジェクトなど



とびらプロジェクト集合写真

Museum Start あいうえの

とびラボによって生まれた印刷物

『とびリア』、『トピカンみどころマップ』、『ライぶらり』



『トピカンみどころマップ』前川國男特集



『ライぶらり』ルーヴル美術館展編



『ライぶらり』世紀の日本画編



チラシ（表紙）

上野公園に集まる文化施設が連携し、子供たちのミュージアム・デビューを応援するプロジェクト。子供と大人がフラットに学びあえる環境を創造する「ラーニング・デザイン・プロジェクト」である。日本を代表する文化施設が歩いてまわれる範囲に集まっているという上野公園の魅力を活かし、バラエティ豊かな文化施設が連携することで、学びのスケールを何倍にも広げている。

このプロジェクトの連携館は、上野の森美術館、恩賜上野動物公園、国立科学博物館、国立国会図書館国際子ども図書館、国立西洋美術館、東京国立博物館、東京文化会館（五十音順）であり、東京文化発信プロジェクトの一環として行われ、当館と藝大が推進役となって実施している。ロゴ、連携各館のアイコンなどのデザインは、藝大教授である日比野克彦氏によるものである。また、美術館の「ビ」のように、館種を表す言葉の頭文字をつないだ「ビビハドトカダブ」という造語をこのプロジェクトの「ひみつのかん」としている。実施プログラムは事業実施一覧（P60～P62）参照。ウェブサイト（6/21～3/31、閲覧回数 28,618 回）<http://museum-start.jp/>

とびラボプロジェクトとの連動

「Museum Start あいうえの」に参加する子供たちが上野の豊富な文化資源と出会い、驚き、考え、発見するプロセスがより充実した体験になることを目指し、とびラボプロジェクトのとびラーが積極的に活動、子供たちの伴走役を務めた。大人と子供が学び合う関係性をコンセプトとしている。

Museum Start あいうえの事務局

藝大の長尾朋子特任助手（Museum Start あいうえの・コーディネータ）、石井理恵（Museum Start あいうえの・プログラム・オフィサー）が当館のプロジェクトルームにて運営の実務を担当した。

Museum Start あいうえのウェブサイトの機能

Museum Start あいうえのウェブサイトは、連携する9館の豊富な情報をまとめてみられるように設計されている。特に、一般的には展覧会情報に付随して掲載されていて探しにくい、子供たちやそのファミリーが参加できるプログラムの情報が整理されており、そのことでミュージアムがより身近なものとなり、ワクワクするような情報へのアクセスを可能にすることを目的としている。連携各館の担当職員と緊密に連携をとりながら、子供たちが各館へ出かけていきやすいよう、開催されるプログラムの情報が日々更新され「冒険の行き先」ページで情報を得られるようにデザインされている。

また、開催されたプログラムの活動記録がブログ形式でアップされている。



「冒険の行き先」ページ

ミュージアム・スタート・バックの配付

より楽しくミュージアムを巡り学ぶための冒険のツールとして「あいうえの学校」に参加した子供たちに、ミュージアム・スタート・バックをもちろんプレゼント。バックは「ビビハドトカダブック」と「肩掛けバック」がセットになったもの。「あいうえの学校」に参加していなくても、興味がある子供には使い方の説明を行った上で当館にて配付を行った。配付会は全14回開催。のべ155人の子供の手に渡った。また、あいうえの学校に参加し、バックを受取った子供と合わせると、平成25年度は1,634人の子供の手に渡った。

とびラボプロジェクトのコミュニケーション・デザインと活動の記録保存

とびラー同士は、実際に会って話し合ったり、プログラムを実施したりするのに加えて、メーリングリストとウェブ上の「掲示板」と「ホワイトボード」をコミュニケーション補助ツールとして運用しながら活動を活性化させている。「この指とまれ式」で集まった有志のとびラーの活動は、プログラム実施までのプロセスや、実施後の振り返りなどの内容をそれぞれが自主的に記録し、ウェブ上にある「掲示板」や「ホワイトボード」に必ずアップロードすることによって、100人以上からなるとびラー同士が常に情報共有できるように設計されている。こうした記録は、活動のプロセスの共有の場となった後、アーカイブとしての機能も果たし、次の世代のとびラーがまたそれを参照できるようにつづらられている。

外部評価委員会より

美術館と大学の新たな連携のあり方を示すものとしても注目され、またプロジェクトは優れた成果をあげており高く評価する。アート・コミュニケータ（とびラー）は、これまでにない形の美術館でのボランティア像として注目されており、今後さらにも積極的な展開を望む。アート・コミュニケータの養成内容も充実してきている。

担当者より

今年度は上野公園の文化施設をつなぐ「Museum Start あいうえの」をスタートさせたことで、とびラボプロジェクトの実践の場の範囲が物理的にも、また内容的にも18歳以下を対象としたプログラムへと広がった。1期・2期合わせて100名を超えるとびラーが基礎講座・実践講座を経ながら、初年度にも増して活発に活動し、プロジェクトの活動は徐々に外部の関心と呼び、他の地方自治体からの視察や新聞・雑誌等の取材を多数受けた。連携の一方である藝大の中でもこのプロジェクトへの理解が広まった年度であった。現在の活発な動きが保たれ且つ拡大しすぎないという、絶妙なバランスでプロジェクトの新陳代謝を促すマネジメント力が求められ、その力を藝大の担当者とともに高めていくことが今後の大きな課題である。（稲庭）



ビビハドトカダブック

年間活動プログラム

あいうえの学校

「あいうえの学校」は個人・家族向けプログラム「子供と家族の美術館」と学校向けプログラム「先生と行く美術館」で構成される、当館を拠点としたプログラムである。子供たちが学校でも、放課後や休日に家族とでも美術館を楽しむことができるように、体験を通した学びの環境を用意した。

子供と家族の美術館（個人向けプログラム）

・夏休みの美術館

特別プログラム：Hi! Zai（やあ材料！）

講師：大月ヒロ子（ミュージアム・エデュケーション・プランナー） 3日連続開催、31人登録（メンバー制）

身の回りにあるありふれた廃材が、魅力ある創作の材料に変身していく「クリエイティブリユース」のワークショップ。街を歩いて、廃材を集め、手を動かし、集まった仲間たちと豊かなコミュニケーションをとりながら作品を制作。

夏休み期間中に3日間連続で開催する、日々の暮らしを楽しむプログラム。Museum Start あいうえのウェブサイト動画のドキュメントがある。



Hi! Zai

・鑑賞プログラム：海をめぐるものがたり

講師：藤川悠（アート・エデュケーター）

全10回開催 各回10人、計100人参加

特別展「ルーヴル美術館展」にちなんだ2時間のワークショップ。ルーヴル美術館が大切にしてきた作品をじっくり見ながら「海をめぐるものがたり」をテーマとして鑑賞を楽しみ、鑑賞の記憶を「ビビハドトカダブック」に記録した。



海をめぐるものがたり



プログラム参加者が制作したブック

・日曜日スペシャル：のびのびゆったりワークショップ

講師：杉山貴洋（白梅学園大学発達臨床学科准教授）

全6回開催 21人登録（メンバー制）

障害のある子供たちを含むすべての子供たちのためのアート・コース。手や体を動かしながら楽しくアートに触れる機会を創出。美術館の環境を活かし、すべての子供たちがゆったりと鑑賞し、のびのびと表現できる環境を用意。6回とも同じとびラーが参加者に寄り添い、安心して手や体を動かし、のびのび表現することができた。



のびのびゆったりワークショップ

・放課後の美術館

全23回 43人登録（メンバー制）のべ参加人数568人

毎週水曜日の午後、当館の一部を子供たちのために開室。メンバー登録制で、クラブ活動のように自由に美術館に通い、美術館が様々な人との出会いの場、学びの場、そして居場所となるような環境を目指した。展覧会を鑑賞したり、廃材で何かをつくったり、そこに集った人と話をしたり、上野公園の他のミュージアムに出掛けたり。何をするかを、その場にいる美術館学芸員やとびラーなどの大人たちと共に考え、場をつくっていくことを試みた。



放課後の美術館

先生と行く美術館（学校向けプログラム）

・スペシャル・マンデー・コース 全5回開催 14校698人参加

当館で開催される特別展の休室日（月曜日）に、学校単位で授業として来館する子供たちのために展示室を特別にオープン。事前→当日→事後の学びをサポートしながら、貸切りの展示室で子供たちとの対話を中心に、じっくりと自由な発想を引き出し、観察力、想像力、発想力、言語力、表現力の発達を促すことで、生きる力を育むことを目的と

した。また、希望される学校には貸切りバスが当館と学校を直通で結び、アクセスのハードルを解消した。



スペシャル・マンデー・コース

・通常開室日コース 全12回開催 12校490人参加

当館の開室日に学校単位で来館したい、という希望や、美術館で鑑賞授業をしたい、という先生方に、教材貸出や事前準備から当日までのサポートを行い、通常開室日でも可能な、よりよい美術館体験を提案・実践した。

外部評価委員会より

上野公園の文化施設と連携したプログラムを、都美と藝大が中心となって新しい事業を展開しており、優れた取組、先進的取組として成果を上げており高く評価する。例えば、学校からの訪問にも、打合せを効果的に行なうなどきめ細やかな対応ができています。

担当者より

今年度から新しく取組を始めたこの事業は、前年度より始まっていた藝大との連携事業である「とびらプロジェクト」と連動することで、初年度にも関わらず非常に短期間でコンテンツの企画制作から実施までを行うことができた。造形と鑑賞を組み合わせたプログラムや、発達障害など障害のある子供が参加しやすいプログラムなど新しい分野のチャレンジも始まった。すばやい立ち上げの一方で、この事業が9つのセクターとの連携事業であることから各セクターとの連絡調整等、情報の共有や信頼関係構築のためのプロセスは丁寧に行うようチームで意識して取り組んだ。新規の実験的事業ということもあり仕事量が想定以上になり、運営マネジメントの面では今後の安定した継続を目指して課題を整理していく必要がある。（稲庭）

学校連携

公立美術館の大きな役割のひとつに、学校との連携がある。平成25年度は「Museum Start あいうえの」が始まり、小中高生向けのプログラムが拡充された。（「Museum Start あいうえの」についてはP51～53参照）

そのためこの枠組では日常的な学校対応や教員のための研修会の開催、専門家向けの研修会への協力、インターンシップの受入等を行った。また、学校団体来館の事前授業のための「鑑賞ボックス」を作成し、貸出を行った。このボックスには、A4サイズのパウチ図版カードやデジタル図版データ、ポストカードやフレームスタンド等が入っている。

平成25年度実施したプログラムは以下の通り。（事業実施一覧はP60～62参照）

ティーチャーズ・デイ

学校の教員（教科不問）を対象に、美術館をよく知り、上手に活用してもらうための研修プログラム。当館での活動の説明や具体的な学校関連事業の事例を紹介し、学校の夏季休暇時の開催では、対話による鑑賞実践やミュージアムスタートあいうえので活用されている「ビビハドトカダブック」を実際に活用するワークショップを開催。4回の研修会を行い、のべ100人が参加した。

- 第1回 アート・コミュニケーション事業の紹介、「とびらプロジェクト」事例紹介、「Museum Start あいうえの」の紹介
- 第2回 アート・コミュニケーション事業の紹介、「とびらプロジェクト」事例紹介、「Museum Start あいうえの」の紹介、美術館での鑑賞体験を考えるワークショップ
- 第3回 学校連携を中心とした事例紹介、資料の展示、「アートカード」を使った授業に役立つゲームの体験
- 第4回 アート・コミュニケーション事業の紹介、「とびらプロジェクト」「Museum Start あいうえの」の当年度の事例紹介



ティーチャーズ・デイ

インターンシップ

学芸員を目指す学生や、美術館活動を支える専門的な人材育成を目的とする。主に大学院修士課程に在籍する学生を対象に、最長で1年間、年に若干名をインターン生として受け入れている。

アート・コミュニケーション事業業務の補佐として従事、現場を通して学ぶ機会を提供している。平成25年度は2人受け入れた。

専門的研修会への協力

文化庁が主催する学芸員対象のエducator研修や、大学教員の研究グループ、図工や美術教員で構成される研究部会の研修などに協力。当館の活動の考え方や鑑賞プログラムの具体的な方法について意見交換や共有を行った。今年度は新たに全国造形教育研究会（全造連）において、当館所蔵の複製屏風を用いた鑑賞授業の実践を出張して行った。また、東京都図工研究会の研究授業の枠組で、美術館での授業を教員と相談しながら実行した。11団体・学校、のべ467人に対応。

文化庁主催第3回エドゥケーター研修

http://www.bunka.go.jp/bijutsukan_hakubutsukan/museum/
全国造形教育研究大会 <http://2013tokyo.zenzouren.net/>



全造連の東京大会での鑑賞授業風景 墨田区立両国中学校

担当者より

平成25年度の学校連携事業は、事業実施2年目として、昨年度の基礎的なモデルを整備。東京都美術館ならではの学校連携事業のあり方を構築していった一年でした。一例としては、A4サイズのパウチ図版カードやデジタル図版データ、ポストカードやフレームスタンド等が同梱された「鑑賞ボックス」を特別展ごとに複数セット作成。来館を希望する学校に貸出しました。各種ツールを事前授業や事後授業で活用してもらうことで、言語活動を取り入れながら子供たちの来館への期待を高めるとともに事後の振り返りにも役立ててもらい、当日だけではなく事前・事後とつながりのある鑑賞プログラムを行いました。また教員を対象にティーチャーズ・デイを4回実施。アート・コミュニケーション事業の説明をはじめ学校連携の事例を紹介。のべ100人の先生方にご参加頂きました。参加した先生からは「他校の実践例や取組みを知ることができてよかった。」といった声を頂きました。今後は、こうした声を受け、ウェブサイトなども活用し、実践例の公開も視野に入れて活動していきたいと考えます。（熊谷）

展覧会関連プログラム

当館では、各年度で報道機関などとの共催による大型の特別展を4展、学芸員による自主企画展を1展、公募団体などとの連携展を3展行っている。それぞれの展覧会をより深く理解し楽しんでもらえるように、開催期間中にさまざまなプログラムを企画して行った。平成25年度実施したプログラムは以下の通り。（事業実施一覧はP60～62参照）

1 一般参加プログラム

展覧会の出品作家が自身の作品について語るトークイベントや座談会など。ふだんは目に触れることの少ない制作過程をはじめ、作品の背景についてなど、興味深いトークが行われた。

2 ファミリー・プログラム

展覧会を親子で楽しめる、鑑賞や造形のワークショップを開催した。特別展展覧会会場で貸し出す子供用鑑賞ツール「とびらボード」（磁気ボード）の貸出を継続。

3 新春プログラム

ギャラリーAでダンスパフォーマンスを開催。同時開催の書の展覧会に合わせ、ヴィオラとチェロの生演奏にのせて筆や墨をイメージしたダンスパフォーマンス、筆の動きを身体で表現するワークショップを開催した。

4 とびらボ発 展覧会関連プログラム

とびラーによる自主企画

- オリジナル紙芝居
展覧会の内容に合わせたオリジナル紙芝居の上演。
- むりえプロジェクト「とびらボードでGO!」
特別展展覧会入口で貸し出しをしている「とびらボード」に気に入った作品をスケッチし、それをフレームに収めてオリジナルカードを作成。
- 缶バッジプロジェクト
展覧会を見た記憶を小さなキャンパスに見立てた缶バッジの面にデザインし、その場で缶バッジにしてプレゼントした。
- アルテミスの使い
夜間開室を盛り上げようといわれたプロジェクト。ルーヴル美術館展出品作品、ディアナの衣装をモチーフにした衣装を身にまとい、手作りのランタンを手に掲げ、当館正門で来館者をもてなした。
- 見学会
解説型のギャラリートークではなく、その時、その作品の前に感じたことや気づいたことを参加者同士で言葉にして共有しながら作品を鑑賞する会を開催。

5 特別展ジュニアガイド

中学生以下の子供たちが展覧会を楽しみ学ぶ助けとなる

ジュニアガイドを制作。都内の小・中学校などに送付し、会場でも配布した。ルーヴル美術館展には、3000年の歴史を俯瞰できる年表仕立てのデザインのジュニアガイドを、世紀の日本画展では東京国立博物館の研究者と共同制作し、「日本美術の祭典」を盛り上げることに一役買った。



新春プログラム 酒井幸菜ダンスパフォーマンス



見学会（福田美蘭展）



ルーヴル美術館展ジュニアガイド 世紀の日本画展ジュニアガイド

美術館たんけんツアー・建築ツアー

当館をより理解してもらうための2種類の館内ツアーを継続して開催。

「美術館たんけんツアー」は、親子を対象にして、美術館のバックヤードを当館学芸員と巡り、公募団体展の作品が展示されるまでを体験する。3回開催、のべ26組52人が参加した。

「建築ツアー」は、建築家・前川國男の設計による当館の建物の魅力を知ってもらうツアー。とびラーの案内で、当館のあちこちを散策する。奇数月第3土曜日14時から開催。案内人のオリジナリティが発揮され、それぞれ独自のツアーを展開。6回開催、のべ130人参加。平成25年度は昼の開催に加え、ライトアップされた当館を散策する「トビカン・ヤカン・カIKAN・ツアー」(9.11月)「トビカン・トワイライト・ツアー」(12月)がとびラーからの発案により開催された。7回開催、のべ81人が参加。また、とびラーによって「上野の杜の宝石箱」東京都美術館ヤカン・ミドコロ・スポット」というチラシが作成・配布された。



美術館たんけんツアー



建築ツアー



トビカン・ヤカン・カIKAN・ツアー

外部評価委員会より

とびラーのプログラム運営力向上は、自由な発想を大事にするという、とびラー養成方針が実を結んでいると評価する。

担当者より

美術館たんけんツアーは、公募団体展が開催されるまでのプロセスを、あたかも出品作品となったかのように、搬入口からバックヤードを経て展示室まで辿るツアーです。今年度は幼稚園児から中学生とその保護者のペアを対象に、3回開催しました。通常は目にするのでできない審査の様子を垣間見たり、作品専用エレベータに乗るといった“裏側体験”を通じて、参加者にはこれまで以上に公募展に親しみを感じていただくことができました。協力/書道同文会、日本板画院、主体美術協会、公募ZEN展、奎星会、創画会(田村)

建築ツアーでは平成24年から定期的に開催している奇数月のツアーに加え、とびラーからのアイデアによる「夜間ライトアップ時」のツアーを開催しました。ライトアップ時のツアーは、夜間開室のアナウンスになると共に、30分間のツアーという気軽さをウリにした内容で、昼間の参加者とは異なる属性の方に多く参加いただくことができました。参加者のほとんどは当日のアナウンスを聞いて参加してくださいましたが、満足度は高く、引き続きの開催を求める声も多くいただきました。(河野)



建築ツアーチラシ



トビカン・ヤカン・カIKAN・ツアーチラシ

アクセス・プログラム

ふだんは来場者が多く混雑している特別展において、障害のある方が安心してゆっくり鑑賞できるように、休室日に特別鑑賞会を開催した。事前申し込み制で、平成25年度はレオナルド・ダ・ヴィンチ展、ルーヴル美術館展、ターナー展、世紀の日本画展において各1回ずつ計4回行い、のべ3,069人が参加した。とびらプロジェクトと連動し、毎回40人ほどのとびラーが当日の運営に関わり、プログラムを実現している。展覧会担当学芸員による展覧会解説(手話通訳付き)もロビー階ホワイエで行われた。

加えて、世紀の日本画展の鑑賞会においては、任意団体「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」の協力を受け、見える人と見えない人が一緒に鑑賞する「トーク∞トーク 見える人と見えない人の鑑賞プログラム」を行った。2回開催、41人参加。



特別鑑賞会学芸員展覧会解説



特別鑑賞会受付風景

外部評価委員会より

優れた成果をあげており高く評価。障害者への対応は、社会的な要請でもあり、他の美術館からも先進的取組として興味のあるところである。研究結果をまとめ、広く社会に還元を希望。

担当者より

特別展につき1回実施する「障害のある方のための特別鑑賞会」は、毎回600人程度から900人超の参加をいただきました。担当学芸員による展覧会解説での手話通訳を継続したほか、第4回の特別鑑賞会では、視覚障害者も対象とした「トーク∞トーク 見える人と見えない人の鑑賞プログラム」を実施しました。ひとつのプログラムではありますが、アートを鑑賞することがあらゆる人にひらかれたものであることが、少しずつでも伝わるよう積み重ねていきたいです。(大橋)



トーク∞トークチラシ



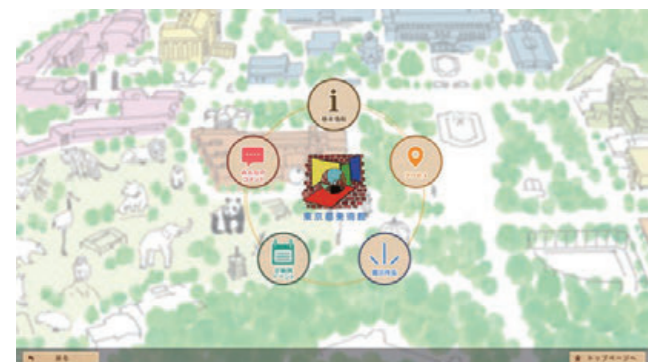
トーク∞トーク

調査・研究プロジェクト

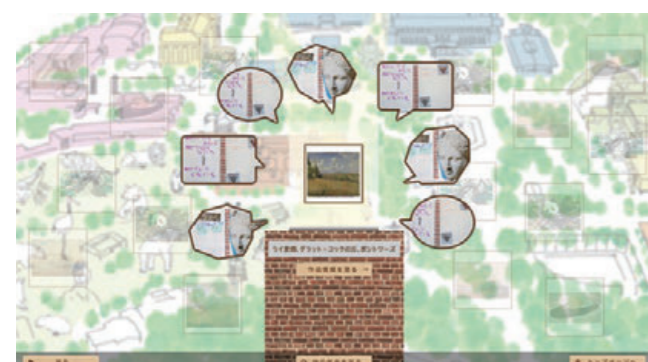
国立情報学研究所との共同研究

この共同研究は、アート・コミュニケーション事業の活動成果を一般の方々に伝える効果的な方法をさぐる取り組みである。平成24年度に引き続き、今年度は映像アーカイブの制作および、活動記録を発信する情報共有環境の研究開発を実施した。美術館におけるアーカイブは、作品などのモノの情報を記録対象とすることが多い。一方、この共同研究では、事業の実施内容とともに、体験した人の記憶（鑑賞体験）を記録と発信の対象としている。鑑賞体験のような不定形の対象を記録し一般の利用に供するため、今年度は鑑賞体験をデータベース化できる情報登録環境と、アートラウンジ等で利用可能なアート・インフォメーションサービスの設計・構築を中心に行った。平成26年度も引き続き研究を行い、サービスのテスト運用をめざす。

共同研究：国立情報学研究所 高野明彦研究室



アート・インフォメーションサービス画面例1



アート・インフォメーションサービス画面例2

アクセス鑑賞プログラム研究会

当館では「障害のある人も何のためらいもなく来館できる美術館となります。」というミッションを実現すべく、アクセス・プログラムとして「障害のある方のための特別鑑賞会」の実施に平成24年度は注力してきた。とびらプロジェクトと連動し、とびラーがこのプログラムを支え、多くの来館者から感謝の言葉が届く中、さらに個別の障害に対応すべく、聴覚障害者向けには学芸員による展覧会解説に手話通訳を導入し、また、視覚障害者に向けたプログラムの実施を検討してきた。

現在の当館の活動の中で実現可能なプログラムはどのようなものであるのか、具体的に平成25年度中の試行実施に向けてプログラムを立案し実施に向けて準備を進めるべく、この研究会を実施。全4回実施。

協力：任意団体「視覚障害者をつくる美術館ワークショップ」



研究会研修風景



研究会風景（展示案内）

新伝統工芸プロデュース

TOKYO CRAFTS & DESIGN

美術館が橋渡しをして東京の伝統工芸職人とデザイナーがコラボレートし、伝統技術を活かした新作品を誕生させるプロジェクト。

認定商品 / 10品39点（平成26年3月末）

販売場所 / 東京都美術館ミュージアムショップ、新宿タカシマヤ、SHUSHU（独ミュンヘン）

商品リスト

商品名	伝統工芸分野	制作者 (職人×デザイナー)	平成24年10月販売開始 ～平成26年3月までの 売上げ個数
トウキョウカボッション	東京七宝	高山弘×村田繭衣	51
切子の指輪	江戸切子	堀口徹×小宮山洋	17
mixed pendant	江戸象牙	片山紀史夫×峰岸奈津子	21
亀甲ブックマーカー	江戸亀甲	大澤健吾×廣田尚子	86
ペーパーウェイト・モアレ	江戸切子	堀口徹×河本匠真	31
小紋チーフ	東京染小紋	富田篤×南出優子	91
木彫ルーペ	江戸木彫刻	渡邊宗雲×渡邊純人	61
結・yuu-	東京くみひも	川勝新市×なごみ	58
ホントノキモチ	東京銀器	泉健一郎×竹中逸人・幾度慶美	17
漆箱子文鎮	江戸切子	廣田達朗×藤本英子	10
売上げ個数合計			443



TOKYO CRAFTS & DESIGN 2012

ロゴタイプ・シンボルマーク



ミュージアムショップのディスプレイ

グッドデザイン賞受賞

このプロジェクトが2013年度グッドデザイン賞（主催：日本デザイン振興会）を受賞した。「ビジネスメソッド、ビジネスマネジメント」の領域で、審査委員から推薦を受けたことによる。推薦理由は「東京の伝統工芸品の技術の固有性、特長を知り尽くした学芸員とデザイナーがプロジェクトを共にマネジメントし、ありがちな『職人とデザイナーのコラボレーション』でなく、デザイナーに対して技術の理解を促しながら、課題を解決しつつ新しい価値をつくることに成功している」とされ、「プロジェクトとして継続することで、技術の伝承・次の世代の職人の育成にもつながる取り組みである」とされた。

審査では、「美術館はアートを媒介に社会や産業の活性化を行う主体的拠点となることが新たな役割となりつつあり、このプロジェクトは美術館の新たなビジネスモデルの可能性、産業社会の中での新たな位置づけを開く試みである」と評価された。



グッドデザイン賞授賞式

アート・コミュニケーション事業 平成 25 年度実績

とびらプロジェクト (P.47～P.50)

項目	内容	期間	枚数・冊数	のべ人数
アートコミュニケータ養成		平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月		127
基礎講座全 6 回		平成 25 年 4 月 13 日 (土)、27 日 (土)、5 月 11 日 (土)、25 日 (土)、6 月 8 日 (土)、22 日 (土)		438
実践講座 鑑賞 全 14 回		平成 25 年 5 月 27 日 (月)、6 月 3 日 (月)、10 日 (月)、7 月 22 日 (月)、8 月 5 日 (月)、9 月 2 日 (月)、9 日 (月)、10 月 21 日 (月)、11 月 5 日 (火)、11 日 (月)、18 日 (月)、25 日 (月)、平成 26 年 2 月 3 日 (月)、10 日 (月)		537
実践講座 アクセス 全 5 回		平成 25 年 6 月 2 日 (日)、7 月 15 日 (月)、21 日 (日)、8 月 25 日 (日)、9 月 15 日 (日)		151
実践講座 建築 全 8 回		平成 25 年 6 月 15 日 (土)、30 日 (日)、7 月 6 日 (土)、8 月 24 日 (土)、9 月 14 日 (土)、28 日 (土)、10 月 26 日 (土)、2 月 22 日 (土)		140
とびら総会 (全員集合の日)	とびらステーション 全 2 回 とびらターミナル 全 2 回	平成 25 年 8 月 10 日 (土)、12 月 7 日 (土) 平成 25 年 10 月 5 日 (土)、平成 26 年 3 月 29 日 (土)		113 94
とびらオープンレクチャー	vol.1 アート・コミュニティの形成・廃材 / ものづくり / コミュニティ 全 2 回 vol.2 人間・前川國男を語る	平成 25 年 5 月 12 日 (日)、19 日 (日) 平成 25 年 10 月 26 日 (日)		177 31
とびらフォーラム	現在進行形! 対話から生まれる未来 美術館から生まれる未来 美術館×大学×とびらのコミュニティデザイン	平成 26 年 2 月 16 日 (日)		305
とびらポ	アート・コミュニケータの自主的な活動打合せなどのコミュニケーションの場 全 223 回 館内スタッフ用ミニコミ誌『とびら』発行	平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月 第 3 号 平成 25 年 4 月 27 日 (土) 第 4 号 平成 25 年 6 月 8 日 (土) 第 5 号 平成 25 年 7 月 15 日 (月) 第 6 号 平成 25 年 10 月 17 日 (木) 第 7 号 平成 26 年 2 月 14 日 (金)		1,373 300 300 300 300 300
	建築案内『トビカンみどころマップ』発行	第 2 号 前川國男特集 平成 25 年 11 月 15 日 (金) 英語版 Architectural High Points the Tokyo Metropolitan Art Museum, TOBIKAN 平成 26 年 1 月 14 日 (火)	web 公開のみ	10,000
	美術情報室公報誌『ライぶらり』発行	第 4 号 レオナルド・ダ・ヴィンチ展編 平成 25 年 5 月 30 日 (木) 番外編 東京都美術館の設計を手がけた建築家 前川國男 平成 25 年 7 月 10 日 (水) 番外編 東京都美術館の歴史と建築 平成 25 年 7 月 10 日 (水) 第 5 号 ルーヴル美術館展編 平成 25 年 8 月 30 日 (金) 第 6 号 日本美術院再興 100 年特別展 世紀の日本画展編 平成 26 年 3 月 8 日 (土)		5,000 5,000 5,000 3,000
藝大卒業・修了展関連プログラム	日比野克彦×とびら座談会 日比野克彦×松井冬子対談「東京藝大を卒業したころ」 藝大さんぽ (とびら発プログラム) 見学会 (とびら発プログラム) 全 2 回	平成 26 年 1 月 27 日 (月) 平成 26 年 1 月 30 日 (木) 平成 26 年 1 月 26 日 (日) 平成 26 年 1 月 26 日 (日)、30 日 (木)		29 235 25 31

Museum Start あいうえの (P.51～P.53)

項目	内容	期間	枚数・冊数	のべ人数
こどもと家族の美術館	夏休みの美術館 HiZai! 全 3 回 夏休みの美術館 海をめぐるものがたり 全 10 回	平成 25 年 8 月 1 日 (木)、2 日 (金)、3 日 (土) 平成 25 年 8 月 6 日 (火)、7 日 (木)、8 日 (金)、17 日 (土)、18 日 (日)、20 日 (火)、22 日 (水)、27 日 (火)、28 日 (水)、29 日 (金)		73 100
	日曜日スペシャル のびのびゆったりワークショップ 全 6 回 放課後の美術館 全 23 回 ※ 10 月 16 日は台風のため中止	平成 25 年 9 月 22 日 (日)、10 月 6 日 (日)、20 日 (日)、11 月 4 日 (月)、17 日 (日)、12 月 1 日 (日) 平成 25 年 9 月 11 日 (水)、18 日 (水)、25 日 (水)、10 月 2 日 (水)、9 日 (水)、16 日 (水)、23 日 (水)、30 日 (水)、11 月 6 日 (水)、13 日 (水)、20 日 (水)、27 日 (水)、12 月 4 日 (水)、11 日 (水)、18 日 (水)、平成 26 年 1 月 8 日 (水)、15 日 (水)、22 日 (水)、29 日 (水)、2 月 5 日 (水)、12 日 (水)、19 日 (水)、26 日 (水)		121 568
	ミュージアム・バック配付 全 14 回	平成 25 年 8 月 17 日 (土)、18 日 (日)、9 月 21 日 (土)、22 日 (日)、10 月 19 日 (土)、20 日 (日)、11 月 16 日 (土)、17 日 (日)、24 日 (日)、平成 26 年 2 月 15 日 (土)、16 日 (日)、3 月 15 日 (土)、16 日 (日)、23 日 (日)		155
先生と行く美術館 スペシャル・マンデー・コース	台東区立平成小学校 台東区立松葉小学校 台東区立谷中小学校 渋谷区立広尾小学校 豊島区立仰高小学校 中央区立常盤小学校 葛飾区立末広小学校 台東区立東浅草小学校 港区立麻布小学校 荒川区立荒川保育園 足立区立舎人小学校	平成 25 年 6 月 10 日 (月) 平成 25 年 6 月 10 日 (月) 平成 25 年 6 月 10 日 (月) 平成 25 年 9 月 9 日 (月) 平成 25 年 9 月 9 日 (月) 平成 25 年 9 月 9 日 (月) 平成 25 年 11 月 11 日 (月) 平成 25 年 11 月 11 日 (月) 平成 25 年 11 月 25 日 (月) 平成 25 年 11 月 25 日 (月) 平成 25 年 11 月 25 日 (月)		46 27 58 25 67 48 39 46 28 18 66

項目	内容	期間	枚数・冊数	のべ人数
	文京区立根津小学校 中野区立江古田小学校 台東区立浅草中学校	平成 26 年 2 月 10 日 (月) 平成 26 年 2 月 10 日 (月) 平成 26 年 2 月 10 日 (月)		35 34 161
先生と行く美術館 通常開室日コース	荒川区立第九峡田小学校 中野区立多田小学校 聖徳大学付属女子中学校 星野高等学校 埼玉県立伊奈学園総合高等学校 東京都立小松川高等学校 私立佼成学園女子中学高等学校 世田谷区立花見堂小学校 聖徳学園中学校 埼玉県立伊奈学園中学校 豊島区立南池袋小学校 千葉県富津市立富津中学校美術部	平成 25 年 9 月 12 日 (木) 平成 25 年 9 月 19 日 (木) 平成 25 年 11 月 2 日 (土) 平成 26 年 1 月 5 日 (日) 平成 26 年 1 月 5 日 (日) 平成 26 年 1 月 8 日 (水) 平成 26 年 1 月 8 日 (水) 平成 26 年 1 月 31 日 (金) 平成 26 年 2 月 4 日 (火) 平成 26 年 3 月 6 日 (木) 平成 26 年 3 月 18 日 (火) 平成 26 年 3 月 25 日 (土)		31 48 67 46 14 11 14 17 82 79 67 15

学校連携 (P.54)

項目	内容	期間	枚数・冊数	のべ人数
ティーチャーズ・デイ	先生のための美術館活用研修会	平成 25 年 6 月 14 日 (金)、8 月 23 日 (金)、10 月 25 日 (金)、平成 26 年 3 月 28 日 (金)		100
インターンの受け入れ		平成 25 年 7 月～平成 26 年 2 月		2
各種研修等への協力	東京都歴史文化財団主催 動くフォーラム 墨田区美術教員研修協力 社会教育主事研修協力 埼玉県庁県民生活部文化振興課 建築ツアー視察対応 文化庁 ミュージアム・エデュケーター研修協力 世田谷美術館 美術大学研修協力 展示学会研修協力 国立西洋美術館 建築ツアー視察対応 群馬県立美術館視察対応 全国造形教育研究会 東京大会 研究授業 (於: 両国中学校) 全国造形教育研究会 東京大会 シンポジウム (於: 両国中学校) 大東文化大学 博物館学講座協力 茅野市美術館視察対応 上野観光連盟主催 フェスティバルオブアーキテクチャー ツアー協力	平成 25 年 7 月 25 日 (木) 平成 25 年 7 月 30 日 (火) 平成 25 年 8 月 9 日 (金) 平成 25 年 8 月 20 日 (火) 平成 25 年 9 月 4 日 (水)、5 日 (木)、6 日 (金) 平成 25 年 9 月 10 日 (火) 平成 25 年 9 月 12 日 (木) 平成 25 年 11 月 2 日 (土) 平成 25 年 11 月 9 日 (土) 平成 25 年 11 月 9 日 (土)、29 日 (金) 平成 25 年 11 月 29 日 (金) 平成 25 年 12 月 8 日 (日) 平成 26 年 2 月 2 日 (日) 平成 26 年 2 月 23 日 (日)		28 25 9 6 159 54 52 14 30 72 28 69 30 25
団体来館対応	愛知県豊橋市立本郷中学校 修学旅行対応 高輪中学校 来館対応 こども美術教室がじゅく 来館対応 埼玉県本庄第一高等学校 来館対応 埼玉県白岡市立篠津中学校 来館対応 (プログラム実施) 昭島市立瑞雲中学校美術部 来館対応 (プログラム実施) 東京都立浅草高校 大田区立出雲中学校美術部 来館対応 (プログラム実施) 千葉県松戸市立第六中学校 来館対応 (バック配布) 足立区立青井中学校	平成 25 年 5 月 29 日 (水) 平成 25 年 5 月 31 日 (金) 平成 25 年 6 月 16 日 (日) 平成 25 年 6 月 21 日 (金) 平成 25 年 7 月 23 日 (火) 平成 25 年 8 月 22 日 (木) 平成 25 年 8 月 28 日 (水) 平成 25 年 8 月 29 日 (木) 平成 25 年 10 月 20 日 (日) 平成 26 年 1 月 31 日 (金)		5 241 60 160 17 11 17 12 21 12

展覧会関連プログラム (P.55)

項目	内容	期間	枚数・冊数	のべ人数
【一般参加プログラム】				
公募団体ベストセレクション展 美術 2013	出品作家によるアーティストトーク 全 4 回	平成 25 年 5 月 4 日 (土)、12 日 (日)、18 日 (土)、26 日 (日)		1,537
福田美蘭展	担当学芸員によるギャラリートーク 全 4 回	平成 25 年 7 月 27 日 (土)、8 月 10 日 (土)、9 月 14 日 (土)、28 日 (土)		175
TOKYO 書 2014	出品書家によるアーティストトーク 全 3 回	平成 26 年 1 月 11 日 (土)、12 日 (日)、13 日 (月)		1,355

項目	内容	期間	枚数・冊数	のべ人数
新鋭美術家 2014	出品作家によるアーティストトーク 全2回	平成26年2月22日(土)、3月2日(日)		190
【ファミリープログラム】				
公募団体ベストセレクション美術 2013	ミュージアムショップ共催ワークショップ びじゅつ探偵団!いろいろなBOOK	平成25年5月26日(日)		22
【新春プログラム】				
新春アート・コミュニケーション・プログラム	ダンスパフォーマンス「ノワールの呼吸」 全2回 ワークショップ『うごきぞめ―「書」の呼吸から身体を感じる』	平成26年1月4日(土)、5日(日) 平成26日1月5日(日)		257 14
【とびらボ発プログラム】				
レオナルド・ダ・ヴィンチ展	紙芝居『天才レオナルド、小悪魔サライ』 全4回 とびらボードでGO! 全2回	平成25年6月9日(日)、16日(日)、23日(日)、29日(土) 平成25年6月15日(土)、16日(日)		478 260
ルーヴル美術館展	紙芝居『ディアナの涙』 全5回 とびらボードでGO! 全2回 アルテミスの使い(おもてなしプロジェクト)	平成25年8月25日(日)、28日(水)、9月1日(日)、8日(日)、22日(日) 平成25年8月25日(日)、9月15日(日) 平成25年9月13日(金)、20(金)、27日(金)		425 192 17
福田美蘭展	見学会 全2回	平成25年9月13日(金)、18日(水)		130
ターナー展	紙芝居『ターナー島と伝説の船長』 全4回 とびらボードでGO! 全2回 缶バッチプロジェクト 全2回	平成25年11月23日(土)、12月1日(日)、8日(日)、15日(日) 平成25年11月16日(土)、12月15日(日) 平成25年11月2日(土)、3日(日)		446 121 518
世紀の日本画展	とびらボードでGO! 全2回 ヨリミチビジュツカン 全2回	平成26年2月23日(日)、3月28日(金) 平成26年2月21日(金)、3月21日(金)		50 22
新鋭美術家 2014 展	見学会	平成26日2月28日(金)		17
【とびらボードの貸出】				
レオナルド・ダ・ヴィンチ展		平成25年4月23日(火)～6月30日(日)	3,676	
ルーヴル美術館展		平成25年7月20日(土)～9月23日(月)	2,333	
ターナー展		平成25年10月8日(火)～12月18日(水)	1,816	
世紀の日本画展		平成26年1月25日(土)～2月25日(火)、3月1日(土)～4月1日(火)	862	
【ジュニアガイドの配布】				
ルーヴル美術館展	一部三県の全小中学校(5,619校)、図書館(500館)への送付 会場での配布	平成25年7月20日(土)～8月31日(土)(夏休み期間中のみ配布)	18,357 14,725	
世紀の日本画展	一部三県の全小中学校(5,619校)、追加送付希望校(77校)への送付 会場での配布	平成26年1月25日(土)～2月25日(火)、3月1日(土)～4月1日(火)	32,253 2,610	

美術館たんけんツアー・建築ツアー (P.56)

項目	内容	期間	枚数・冊数	のべ人数
美術館たんけんツアー 全3回	親子ペアでの参加	平成25年6月16日(日)、8月24日(土)、10月26日(土)		52
建築ツアー	通常ツアー(奇数月第3土曜日) 全6回 トビカン・ヤカン・カikan・ツアー(とびらボ発プログラム) 全5回 トビカン・トワイライト・ツアー(とびらボ発プログラム) 全1回	平成25年5月18日(土)、7月20日(土)、9月21日(土)、11月16日(土)、平成26年1月18日(土)、3月22日(土) 平成25年9月13日(金)、20日(金)、27日(金)、11月2日(土)、3日(日) 平成25年12月13日(土)		130 57 24

アクセス・プログラム (P.57)

項目	内容	期間	枚数・冊数	のべ人数
障害のある方のための特別鑑賞会	レオナルド・ダ・ヴィンチ展	平成25年6月24日(月)		805
	ルーヴル美術館展	平成25年8月26日(月)		961
	ターナー展	平成25年12月9日(月)		710
	世紀の日本画展	平成26年3月10日(月)		593
トーク∞トーク 見える人と見えない人のための鑑賞会	世紀の日本画展	平成26年3月10日(月)		41

調査・研究プロジェクト (P.58)

項目	内容	期間	枚数・冊数	のべ人数
視覚障害の方とともに考える鑑賞研究会 全4回		平成25年9月21日(土)、11月9日(土)、平成26日1月25日(土)、3月10日(月)		143

外部評価委員会より

アート・コミュニケーション事業は、いずれも目標を大きく超えて発展し成果を上げ、全国的にも注目され、優れた取組・館独自の先進的取組として特に高く評価されるべき事業である。このような活動は美術館の重要な活動であるが、本年度は特に、創意に満ちた館内の鑑賞プログラムに多くの参加者を得て着実に成果をあげている点や、アート・コミュニケータのプログラムの運営力の向上は、アート・コミュニケータの自由な発想を大事にするという、養成・運営方針が実を結んでいる現れとして評価できる。新たに開始された「Museum Start あいうえの」は外部からも注目を集めており、上野の周辺施設との連携を活発にしながら事業展開を行っていくことを期待する。

担当者より

今年度の新規の「Museum Start あいうえの」は、アート・コミュニケーション事業を立ち上げるリニューアルの準備時より将来的な取組む課題として挙げていた「上野公園の文化施設間の実質的連携」や、「ミュージアムを場とした新しい学びの環境づくり」をより積極的に組み込み、実施に至ることができた。各文化セクターをつなぐこの構想が実現できたのは、やはり藝大と連携体制にあるからこそであり、ひとつの組織だけで旗を振り、理念を推進していくのは難しいであろうと、実施をしてみても痛感している。アート・コミュニケーション事業は他組織と関係性を築きながら成果を上げていく活動が多く、これらの事例が今後の厳しい文化施設運営の時代の中で成果を上げる手法として、他でも参照できる事例となるよう今後も努力し、また実施概要等の情報発信をしていくことが課題である。(稲庭)

平成25年度 東京都美術館年報

Tokyo Metropolitan Art Museum
Annual Report 2013

発行日／平成26年12月

執筆・編集／東京都美術館

制作／株式会社アポロ社

印刷／株式会社ルナテック

発行／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館

〒110-0007

東京都台東区上野公園8-36

TEL 03-3823-6921(代表)

FAX 03-3823-6920

本冊子はアート・コミュニケーション事業に該当するページの抜粋である。

平成25年度東京都美術館年報全文はウェブサイト(<http://www.tobikan.jp/archives/publication.html>)にてダウンロードしていただけます。